平和都市宣言20周年

今考える、戦争と平和

人々が等しく平和に暮らせる世界の実現を目指し、市は平成4年に「平和都市宣言」を行いました。今年はそれから20周年という節目を迎えます。私たちは、この宣言に込められた思いを大切にし、戦争のない平和な社会を築いていかなければなりません。この機会に、あらためて過去の戦争がもたらしたことや平和の尊さについて考えてみましょう。

このページに関するお問い合わせは、区政課☎211-2252

札幌の戦争の歴史を知る

太平洋戦争が終結してから60年余りが経過し、
戦争の記憶が薄れつつある昨今。
まず、札幌における戦争の歴史を振り返ってみましょう。

【札幌の戦前戦後のあゆみ】

1937（昭和12）年	日中戦争が始まる
1938（昭和13）年	戦争の進展に伴い、昭和15年に開催予定の第5回冬季札幌オリンピックを返上
1939（昭和14）年	第2次世界大戦が始まる
1940（昭和15）年	札幌に北部軍司令部設置
1941（昭和16）年	太平洋戦争が始まる
1942（昭和17）年	資源不足のため、狸小路のスズラン灯を供出
1944（昭和19）年	大通公園が自給菜園となる
1945（昭和20）年	・白石、手稲、苗穂、丘珠が空襲に遭う ・広島、長崎に原爆投下 ・終戦
1972（昭和47）年	第11回冬季札幌オリンピック開催
1992（平成4）年	札幌市平和都市宣言

札幌でも空襲があった

1945（昭和20）年7月に、北海道は米軍による空襲にさらされ、札幌では白石や手稲、苗穂などが攻撃を受けました。現在のJR白石駅付近では機関車が銃撃を受けたほか、丘珠では陸軍の飛行場とその周辺の農地が爆撃に遭い、市民の尊い命が奪われました。

↑丘珠に撃ち込まれた機銃弾

供出されたスズラン灯 ▶

戦局が悪化していく中、武器を作るのに必要な鉄や銅が積極的に回収され、狸小路にあったスズラン型の街灯も姿を消しました。

↑昭和3年ごろの狸小路とスズラン灯

↑大通公園を耕す市民（昭和19年）

◀畑になった大通公園

戦時中は食料不足となり、大通公園の大部分はイモなどを栽培する畑として利用されました。

戦地に赴く学生たち ▶

太平洋戦争末期には兵力不足を補うため、市内の学生も在学途中で戦地に赴くことになりました。

↑北海道帝国大学（現北海道大学）専門部学徒の出陣（昭和20年）

↑北部軍司令部に向かう占領軍（昭和20年）

◀北1条通を進む占領軍

終戦後、小樽に上陸した占領軍は北1条通を進んで札幌の中心部に入りました。重装備の車両群が列を連ね、兵士たちは手に銃を握りしめていたといいます。